論理力、伝達力UP！「正しく、美しい日本語」やり直しトレーニング

日経ビジネス Associé
2011年6月21日発行・発売（毎月2回第1・第3火曜日発行・発売）
第10巻第12号通巻232号 2002年10月3日第三種郵便物認可
日経ビジネスアソシエ
2011 07/05
定価590YEN

やり直し ビジネスに必須の「伝わる語感」「美しい言葉」

「日本語力」トレーニング

対義語でコミュニケーション力を磨く

敬語、文法、言葉の意味…
"仕事力"を問う「日本語検定」に挑戦！

あなたの文章はなぜ心に響かないのか
「伝わる語感」を身につけよう！

外国人が困惑する「曖昧な日本語」

達人が伝授！
「辞書とパソコン」徹底使いこなし術

特集2 写真1枚で魅せる！

ビジュアルプレゼンの極意

達人ワザから iPad2活用術まで

毎月第1、第3火曜日 発売

「1週間おきに」は毎週？それとも隔週？

佐々木瑞枝さん
Mizue Sasaki

武蔵野大学文学部大学院教授、エコールプランタン日本語教師養成講座講師

京都府生まれ。山口大学や横浜国立大学の教授職を経て現職。専門は日本語学、日本語教育学、異文化コミュニケーション論など。『外国語としての日本語』など著書多数。東京未来教育研究所主宰「日本語教育セミナー」（7～9月の期間に長野県蓼科で全7回開催）に講師として参加予定。

【採用面接試験での休日確認】

フィリップ　「土曜日はお休みですよね」

面接官　「1週間おきに休みが取れます」

フィリップは採用が決まり、出勤を始めたが、土曜日に出てこない。面接官を務めた課長が心配して電話をしたところ、「え！？ 面接の時、土曜日は休みだと言いましたよね」という返事。土曜は隔週で休みになると言ったのに…。

解説　フィリップは「1時間おきにバスが来る」は1時間に1度バスが来ることだし、「30分おきにメールをチェックする」なら、30分に1回メールをチェックすると理解している。その判断は間違っていないが、課長から言われた「1週間おきに」も同じように考えて「毎週」と思ったようだ。課長は「土曜は隔週で休み」と説明したつもりだったのだが、フィリップは誤解した。

時間や距離などの間隔を表す似たような言葉には、「ごとに」がある。「1時間ごとに」と「1時間おきに」は、ともに1時間に1度という同じ意味合いで使われるが、「1週間ごとに」と「1週間おきに」では、毎週と隔週という意味になる。この点が、外国人にとって分かりにくい。大事な契約事項では、こういった誤解が大きなトラブルに発展しかねない。この例の場合、課長は「2週に1度、土曜が休みになります」あるいは「土曜は隔週でお休みです」と、曖昧な「おきに」を使わないで説明すべきだった。

外国人が困る「曖昧な日本語」

「1時間おきにバスが来る」と聞いたら、多くの人は1時間に1回バスが来ると解釈するだろう。それなら、「1日おきにバスが来る」ではどうか。同じように考えれば、「1日に1回バスが来る」となるのだが、何かがおかしい…。

落ち着いて考えると、「1日おきにバスが来る」は、「バスが来た翌日は運休で、明後日にまた来る」。つまり、「2日に1度来る」ではないか。同じ「おきに」を使っていても、「1時間おきに」と「1日おきに」では、解釈の仕方が変わる。このような「曖昧な日本語」は、意外と多い。

外国人に話す時は特に注意

曖昧な日本語は、たわいもない日常会話で使う分はさほど問題ない。だが、誤解が大きなトラブルを生むビジネスの世界では注意が必要だ。特に外国人と日本語でやり取りする時は、意味を取り違えかねない曖昧な言葉は使わない方がいいだろう。

「日本語を学ぶ外国人は、日本人がどのように日本語を使っているかをよく見ています。『なぜその言葉を使うのか』と、用法や意味を深く考えているわけです。曖昧な使い方をする言葉は、日本語教師の私でも説明が難しいものがあります。それをビジネスのやり取りで当たり前のように使っては危険です。相手に対しても配慮が足りないと言えるでしょう。曖昧な言葉を使わずに、他の言葉に言い換える工夫が必要です」。日本語学や異文化コミュニケーションの専門家で、日本語の教師も務める佐々木瑞枝さんはこう話す。

佐々木さんは、「1週間おきに」であれば、「隔週で」や「2週間に1度」と言い換えればいいという。曖昧な使い方をする言葉は、使い方によって逆の意味になったり、その場の雰囲気や人間関係を踏まえないと正しい意味が伝わらなかったりする。

ここでは、「おきに」のほかにも誤解を招きやすい曖昧な言葉を5つ紹介する。褒めたつもりの「おかげ」も、聞き手によってはマイナスの意味で捉えられてしまうことがある。相手に誤解を与えそうな言葉を使ったら、すぐに具体的な表現で言い直すことが大切。逆に自分が解釈に迷ったら、必ず聞き返すようにしよう。

「ちょっと…」はあと何分？

【昼休み前の会話】

エリザベス　「今日、ランチタイムにご相談があるのですが」

日本人の同僚　「それがちょっと…」

エリザベス　「何分待てばいいですか？」

「ちょっと」は外国人からすれば、「少し」や「少々」と同じ意味で受け取ることが多い。このため、エリザベスは「ちょっと待てば相談に乗ってくれる」と受け取った。日本人の同僚は「理由を説明するのは面倒だが、都合が悪い」という意味で「それがちょっと…」とお茶を濁したのだ。うまく意思疎通ができなかった。

解説　「ちょっと」は「少し」という意味で使われることが多いが、「婉曲なNO」を表現する時もある。外国人の場合、この「ちょっと」が何かを断る時に使われていると理解していない場合も多い。この例では、「今日のランチタイムは他の人と約束があるので、他の時間にするか、別の日にしてもらえませんか」とはっきり言わないと通じない。なお、「ちょっと」は、「今度のプレゼンはちょっと見ものですよ」というように、「かなり」や「結構」の意味で使われることもあるので、日本語を学ぶ外国人にとってはやっかいだ。

「おかげ」は褒めてるの？非難しているの？

【会議終了後、課長が部下に一言】

課長　「ロイ君が入社してくれたおかげだよ」

ロイ　「…(ほめてくれているのかな…)」

課長がロイの働きぶりをねぎらうつもりで言った言葉だが、ロイには「おかげで」の意味が分からなかったようだ。課長は困っているのか、喜んでいるのか…。課長が笑顔であれば「褒めている」と分かるのだが、真顔なので表情からも判断がつかなかった。

解説　「おかげ」は感謝の気持ちを込めて言うことが多い。漢字で書くと「お蔭」「お陰」になるように、もともとは神仏の助けや加護を意味していた。ところが最近は、「彼のおかげで迷惑したよ」と軽い非難の気持ちを表すこともある。はっきり非難の気持ちを表すなら「彼のせいで迷惑したよ」と言った方がいい。

もし、「おかげ」の意味を外国人に教えるなら、プラスとマイナスの両方の解釈があることを説明しよう。この例では、「ロイ君が入社して、社員がもっと英語を勉強しようという気持ちになったよ」というように、具体的に言った方が外国人社員には分かりやすい。

「確か」と「確かに」は大きく違う

【会議で進捗確認】

課長　「この企画書は、確か…、君が書くんだよね？」

サラ　「…(不安そうだけど何だろう)」

課長　「この企画書は、君が書くということで間違いない？」

サラ　「はい。間違いありません」

課長はサラがどうして返事に困っていたか恐らく分かっていない。「確か」と言えば、「確かに～である」いう断定の表現しか知らないサラは、「確か…」と言われて課長の期待している答えが分からなくなってしまったのだ。

解説　「確か」は「確かにこれは私のです(間違いない)」などと断定する時に使う一方で、「これは確か…私のです」と確信が持てない時にも使う。特に外国人は、「(地図を見ながら)確かにここは駅から近いね」などと、資料を見ながら何かを判断する時に「確か」を使うと覚えている人が多い。例に出てくる課長は、「確か」を使わずに「この企画書はサラが書く予定だったと思うけど、間違いないかな？」と聞けばよかったわけだ。

「一応」でそんなに喜ばないで…

【上司に頼んでいた紹介状を受け取りに】

ビル　「この間お願いした紹介状、書いていただけましたか」

部長　「一応、書いたけど…」

ビル　「ありがとうございます！これで安心です！」

ビルは笑顔で紹介状を受け取り去っていったが、部長はなぜか不安げ。実は自分の紹介状があったところで、役に立つかどうか自信がないのだ。だから「一応」と言ったのだが、ビルには全く通じなかった。

解説　部長の使った「一応」には、「することはするが、効果は期待できない」という意味が込められている。「一応」は、不確定な要素がある場合に使うことが多いが、ビジネスの現場では「一応やってみますが…」などと、「難しいのでほぼ無理」という意味でも使われる。一方で「一応、資格試験を受けてみます」という「まずは」という前向きな意味でも使われたりする。この例の場合、部長は「紹介状は書いたけど、相手の会社は今忙しいから、紹介状があっても担当者に会うのは難しいと思うよ」と具体的に伝えた方がよかった。